

令和6年度

地域とともにある学校づくり

保谷第一小学校 1年生

コミュニティ・スクールの充実

西東京ふるさと探究学習

単元名： きせつとなかよし
(活動名)

ねらい：

- ・屋敷林の自然物にはたらきかけ、初夏の様子について気付いている。
- ・生き物や樹木、草花を観察し、それらとの関わり方を工夫している。

旧高橋家屋敷林は、2012年に緑の保全を目的とした「下保谷四丁目特別緑地保全地区」に指定され、2017年にその全てが西東京市の所有となりました。保谷第一小学校は、屋敷林へ20分程度で行くことができる場所です。1年生は6月と11月に1回ずつ、屋敷林保存会の人々や豊かな自然と触れ合う活動をします。1回目は6月13日に行ってきました。



屋敷林の季節の植物や生息する生き物などについて、屋敷林保存会の方々による手作り紙芝居で学習しました。



草地では、いろいろな植物や生き物探しをするビンゴを実施しました。「この花の名前は何ですか？」と積極的に質問をしたり、「丸いものあつた！」などと不思議な物を見付けたりして、楽しみながら取り組んでいました。



野草園では、様々な植物を観察しました。「ダンゴムシがいたよ！」「こんなに大きい葉っぱがあるよ！」など細かいところまでよく見ていました。子供たちは疑問に思うことがあると、すぐに屋敷林保存会の方々に質問をしていました。

まとめ コラム

「『ハンゲショウ』の葉は、白と緑の部分があるんだよ。その理由は、虫が花と間違えて来るようするためなんだよ。」「表は半分だけ白いけれど、裏はどうなっているのかな？（めくってみると）裏は全部薄い緑だ！」子供たちは、屋敷林保存会の方々とのやり取りを通して、知的好奇心や気付きの質を高めることができました。11月には、季節の植物や生き物の様子を知るだけでなく、諸感覚を使って自ら関わって遊ぶことができるよう計画していきます。

